

# 1. 事業箇所 位置図



## 清水港 港湾環境整備事業



新興津地区

駿河湾

交通基盤部 港湾局 港湾整備課

かつては風光明媚であった興津海岸は、  
港湾を始めとする社会基盤の整備により  
埋立てられ、自然海岸が喪失した。



現在の海岸線



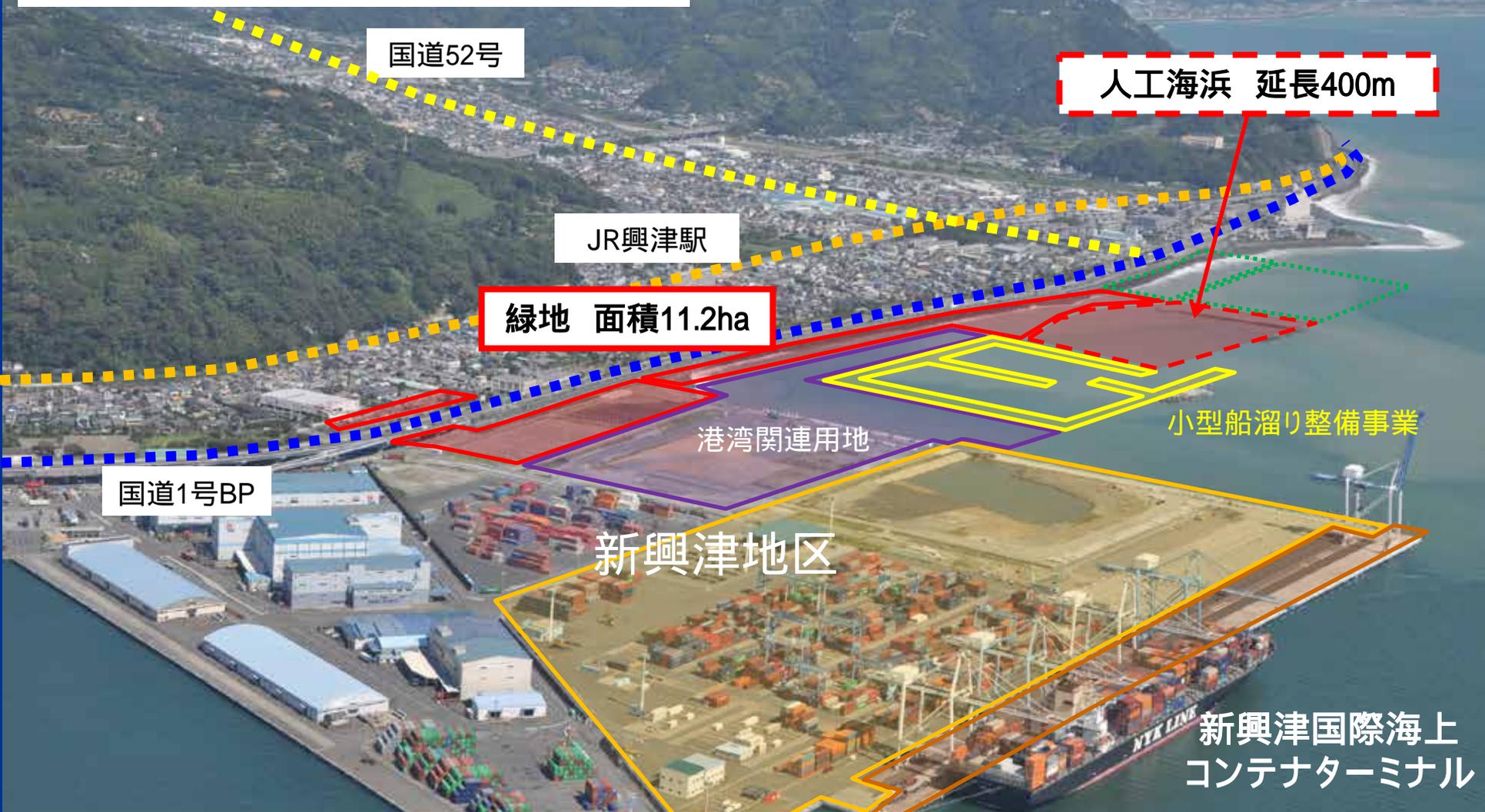
昔の海岸



- ・埋立により喪失した砂浜や磯場
- ・消波工で覆われた景観

現在の海岸

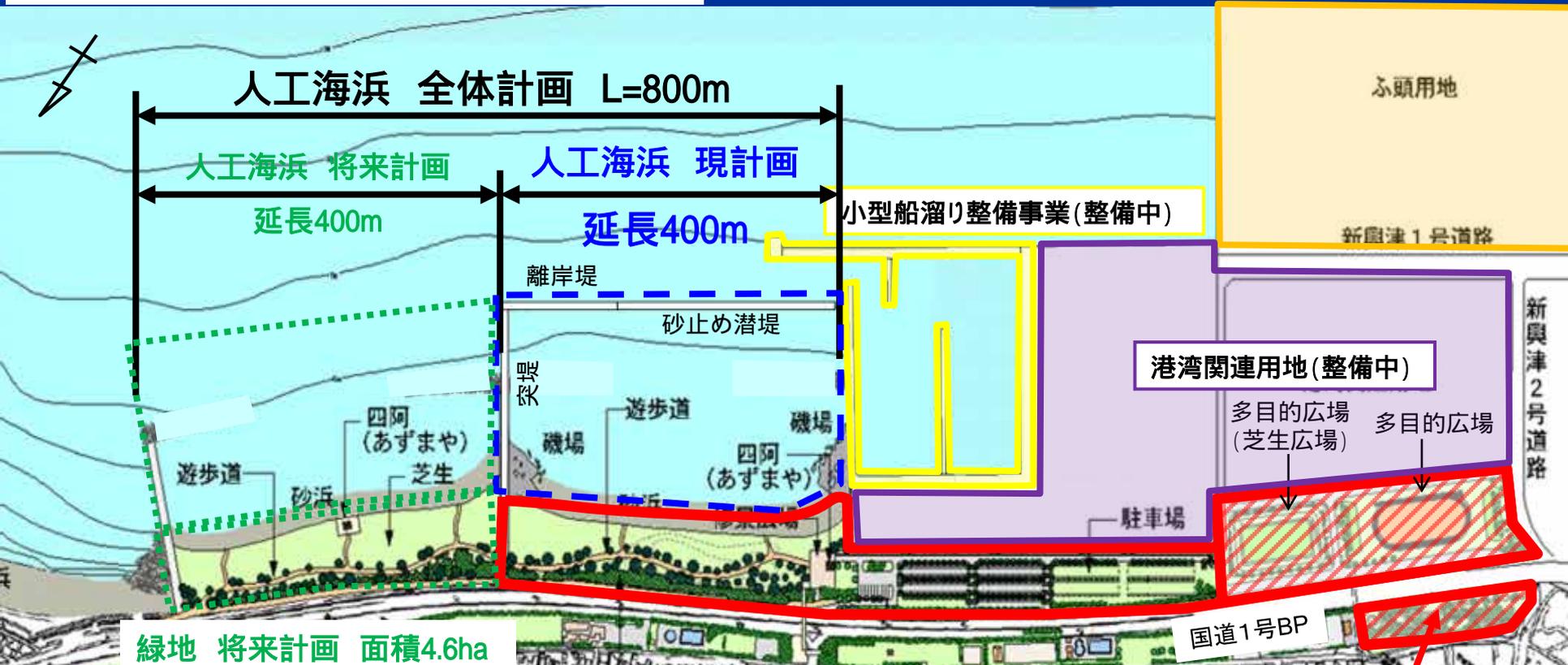
## 2. 事業概要 (1) 事業目的



- ・港湾整備により失われたかつての美しい海岸の復元を目指して、自然と触れ合える海浜、緑地を整備し、快適な海浜環境を創出する。
- ・隣接する小型船溜り整備計画と連携して、地域振興の核となる観光交流拠点を整備する。

# 2. 事業概要 (2) 事業内容

新興津国際海上コンテナターミナル(整備中)



緑地 将来計画 面積4.6ha

緑地 現計画 面積11.2ha

**事業内容**  
 人工海浜 延長400m...現計画  
 (将来計画 延長400m)  
 緑地 面積11.2ha...現計画  
 (将来計画 面積4.6ha)

**事業期間**  
 平成12年度～平成32年度...現計画

**全体事業費** 6,000百万円

レクリエーション緑地 面積7.2ha  
 防災拠点緑地を兼ねた休息緑地 面積4.0ha



面積1.2ha H15.9供用済

### 3. 【視点1】 事業の必要性 (1) 事業を巡る社会情勢等の変化

- ・新興津国際海上コンテナターミナル整備と合わせた早期完成を目指す人工海浜・緑地事業は、**地域全体から強い要望**がある。
- ・人工海浜・緑地事業は、国際海上コンテナターミナルの整備に対して遅れており、**隣接する小型船溜り整備事業の観光交流拠点機能整備と連携した、効果的な事業推進が必要**。
- ・海浜公園の整備は、背後市街地への防災機能の向上が期待できる。
- ・一方で、東日本大震災の津波被害を踏まえ、海浜公園利用者への**津波避難対策の強化が必要**。

### 3. 【視点1】 事業の必要性 (2) 事業の投資効果

**総便益 ( B ) = 133.02億円 (現在価値換算)**

- ・地域環境改善便益 (緩衝・修景) 0.68億円
- ・自然環境向上便益 (エコ) 55.37億円
- ・交流、レクリエーション便益 (パブリックアクセス) 74.51億円
- ・土地の残存価値 2.46億円

**総費用 ( C ) = 57.73億円 (現在価値換算)**

- ・建設費 52.4億円
- ・維持管理費 5.33億円

**費用対効果  $B/C = 2.30$**

### 3.【視点1】 事業の必要性 (3)事業の進捗状況

**事業費ベース : 27.8%**

(平成26年度末見込み:1,665百万円/6,000百万円)

**事業量ベース : 35.7%**

(平成26年度末見込み:供用済緑地面積40,000m<sup>2</sup>/112,000m<sup>2</sup>)

完成箇所:緑地→休息緑地(兼防災拠点緑地)40,000m<sup>2</sup>

人工海浜→離岸堤1基(100m)、突堤(170m/260m)、砂止め潜堤(126m/260m)

#### 休息緑地(兼防災拠点緑地)

多目的広場(芝生広場)

平成26年7月末供用開始



多目的広場

1.2ha供用済



#### 人工海浜、レクリエーション緑地

突堤

離岸堤

砂止め潜堤

小型船溜り整備事業



## 4.【視点2】 今後の事業の進捗の見込み

- ・地域住民の人工海浜、緑地整備に対する期待も大きい。
- ・人工海浜の水際部の整備に着手する。
- ・津波避難対策として、築山(命山)整備や避難経路確保を図る。

## 5.【視点3】 新たなコスト縮減・代替案立案等の可能性

- ・他の公共工事からの**浚渫土砂**や、**発生土**を緑地の**用地造成**に活用する。
- ・海浜公園の埋立造成により不要となる**消波ブロック**を**転用**して有効活用を図る。
- ・人工海浜の養浜砂の基盤に他の公共工事からの**発生石材**を活用したり、**沿岸漂砂**を**捕捉**して、養浜砂の購入削減を図る。

## 6. 対応方針(案)

### (1) 対応方針案

本事業を **継続** する。

### (2) 理由

費用対効果も十分に認められ、緑地整備に対する地域住民の期待も非常に大きいため、事業継続とする。